

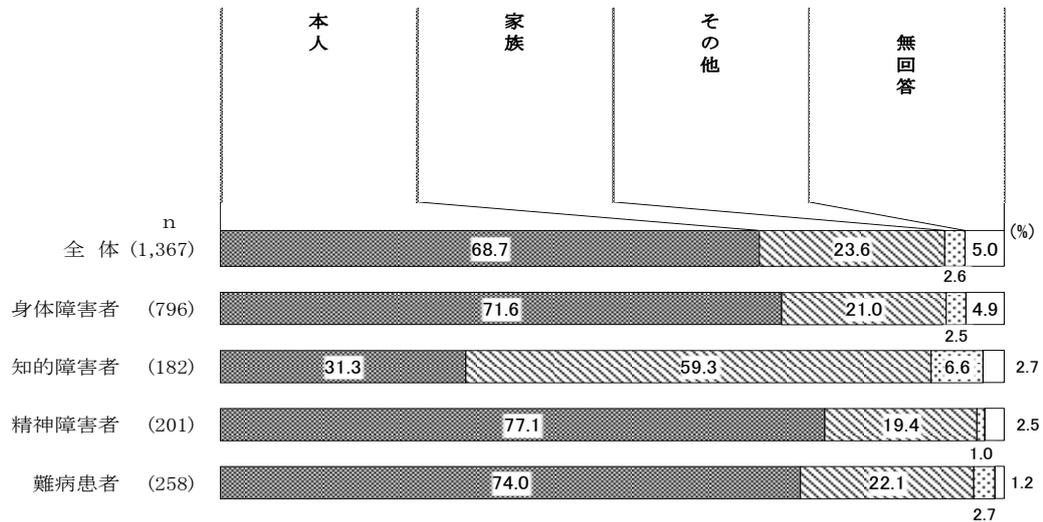
第4章 障害者生活実態調査の結果

回答者の属性		(単位：人)
年齢	5歳以下	8
	6～18歳	64
	19～39歳	175
	40～64歳	394
	65～69歳	133
	70歳以上	565
	無回答	28
	合計	1,367

調査票記入者

問1 記入者

問1 この調査票はどなたが記入されますか。[1つに〇]

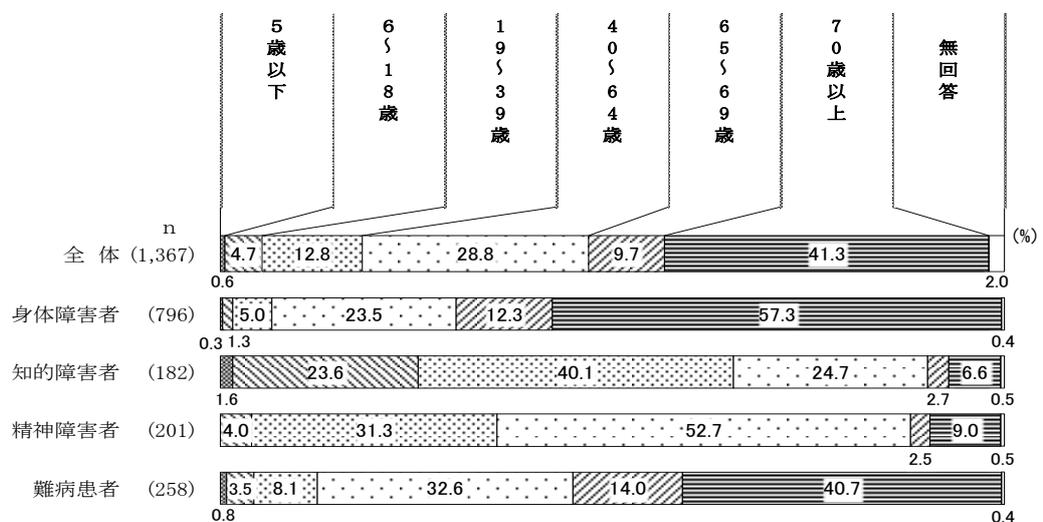


調査票記入者については、身体障害者、精神障害者、難病患者ではあて名の「ご本人」が最も多く、7割以上となっています。知的障害者は「家族」が最も多く、約6割となっています。

1. あて名本人について

問2 年齢

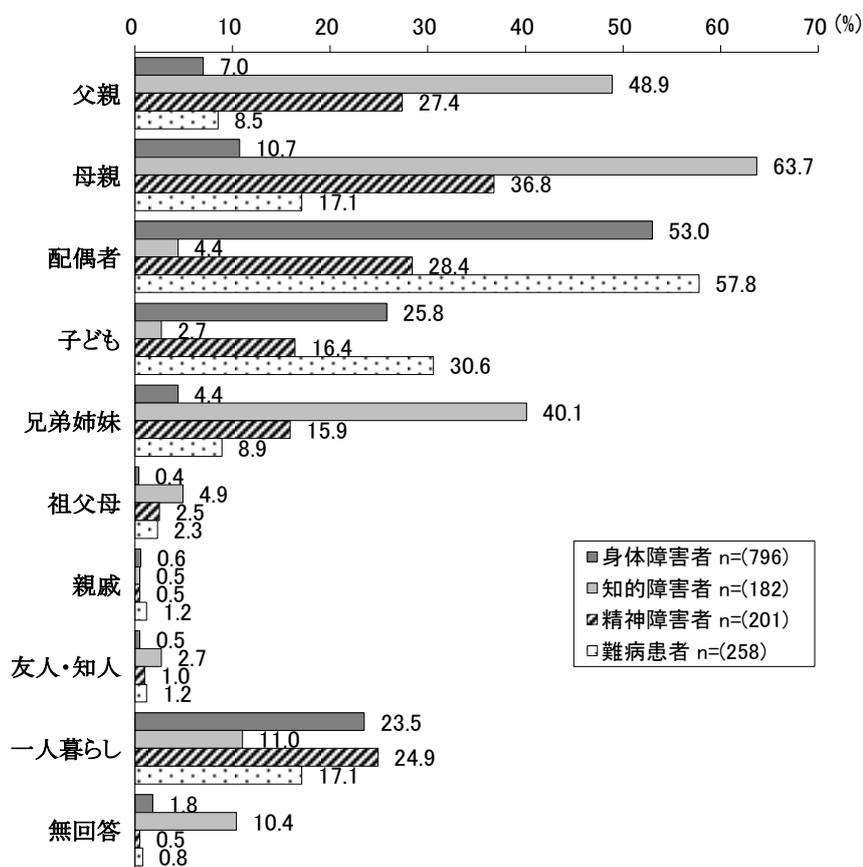
問2 年齢は次のうちどれですか。[1つに〇]



身体障害者と難病患者では「70歳以上」、知的障害者では「19〜39歳」、精神障害者では「40〜64歳」が最も多くなっています。

問3 同居者

問3 同居されている方はどなたですか。[いくつでも○]

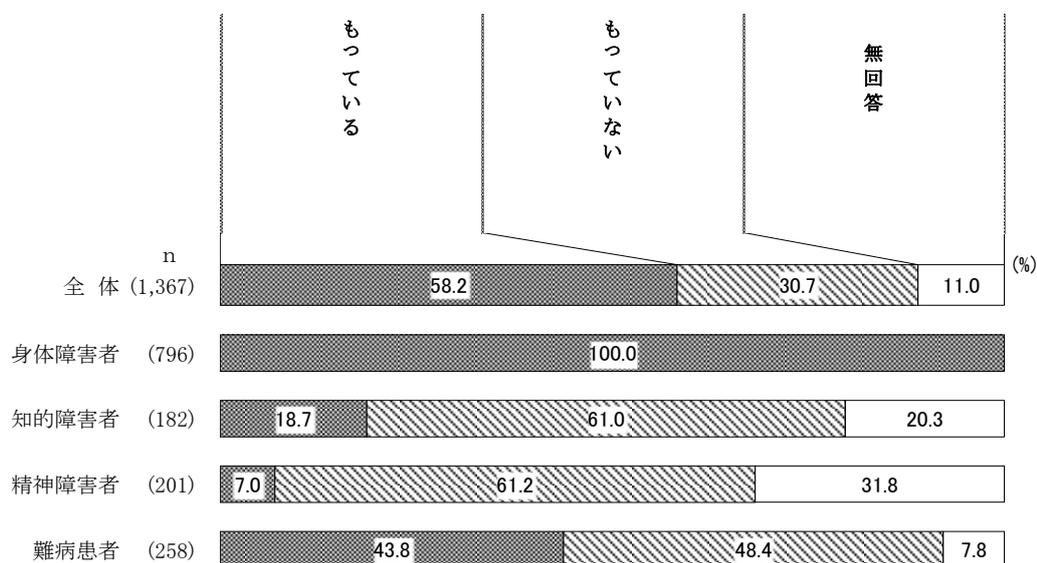


同居家族については、身体障害者と難病患者は「配偶者」が5割以上（順に 53.0%、57.8%）と最も多く、次いで「子ども」（順に 25.8%、30.6%）と続きます。知的障害者は「母親」が6割前半（63.7%）と最も多く、次いで「父親」（48.9%）、「兄弟姉妹」（40.1%）と続きます。精神障害者は「母親」が3割台半ば（36.8%）と最も多く、次いで「配偶者」（28.4%）、「父親」（27.4%）と続きます。また、身体障害者と精神障害者は「一人暮らし」が2割以上（順に 25.5%、24.9%）と多くなっています。

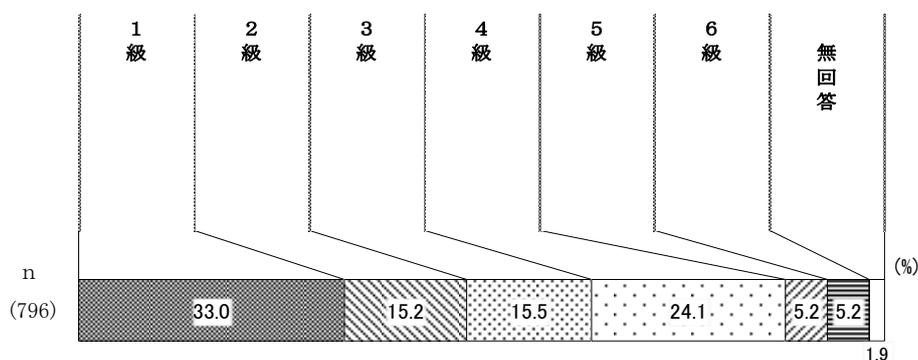
問4 手帳と医療券の状況

問4 次の手帳又は医療券をお持ちですか。

(1) 身体障害者手帳[1つに〇]

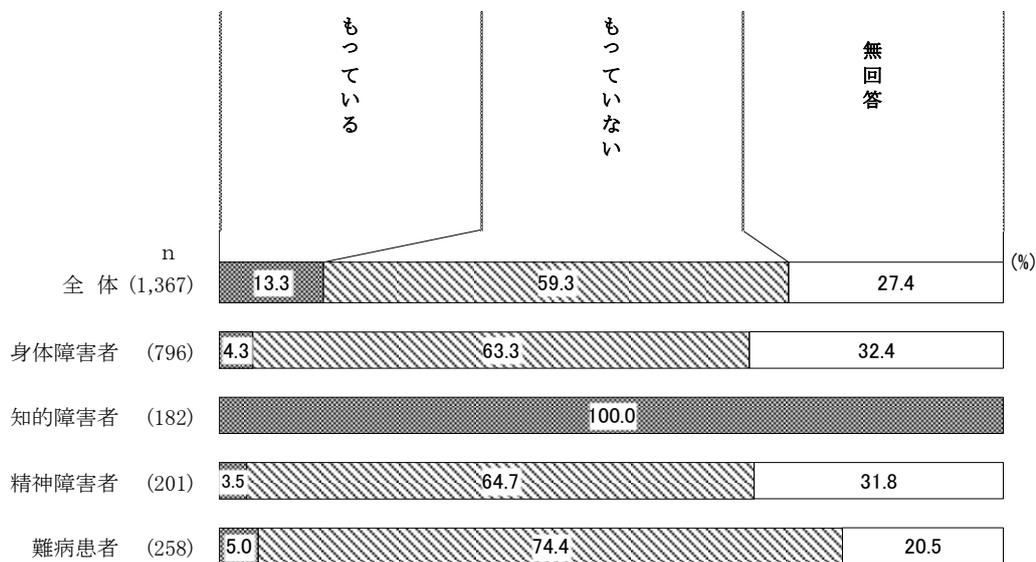


等級[1つに〇]

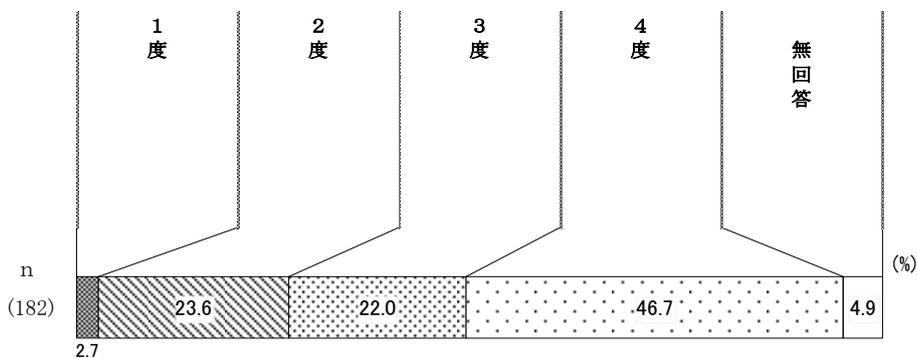


身体障害者手帳の取得状況については、身体障害者以外では、難病患者の「もっている」が4割台前半（43.8%）と多くなっています。また、「もっている」と回答した方の等級については、「1級」（33.0%）、「4級」（24.1%）が多くなっています。

(2) 愛の手帳[1つに〇]

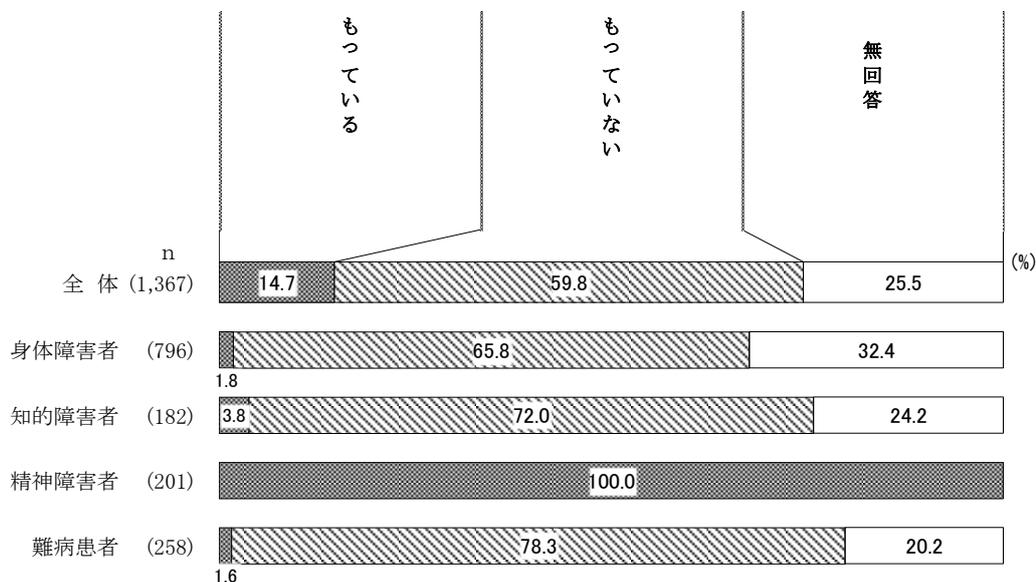


度数[1つに〇]

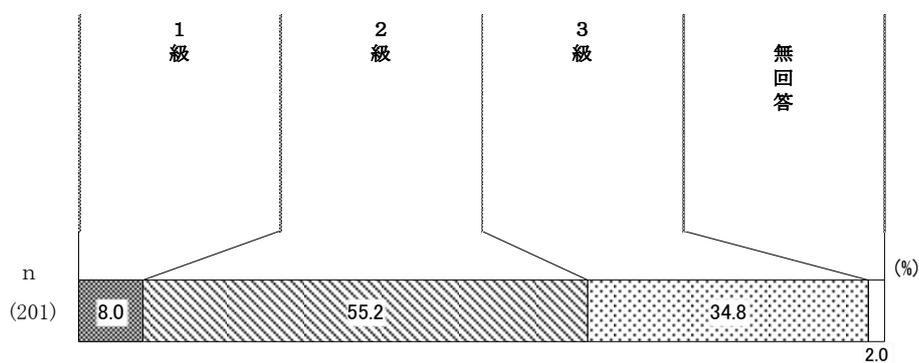


愛の手帳の取得状況については、知的障害者以外では、「もっている」は5%以下となっています。また、「もっている」と回答した方の度数については「4度」(46.7%)が多くなっています。

(3) 精神障害者保健福祉手帳[1つに〇]

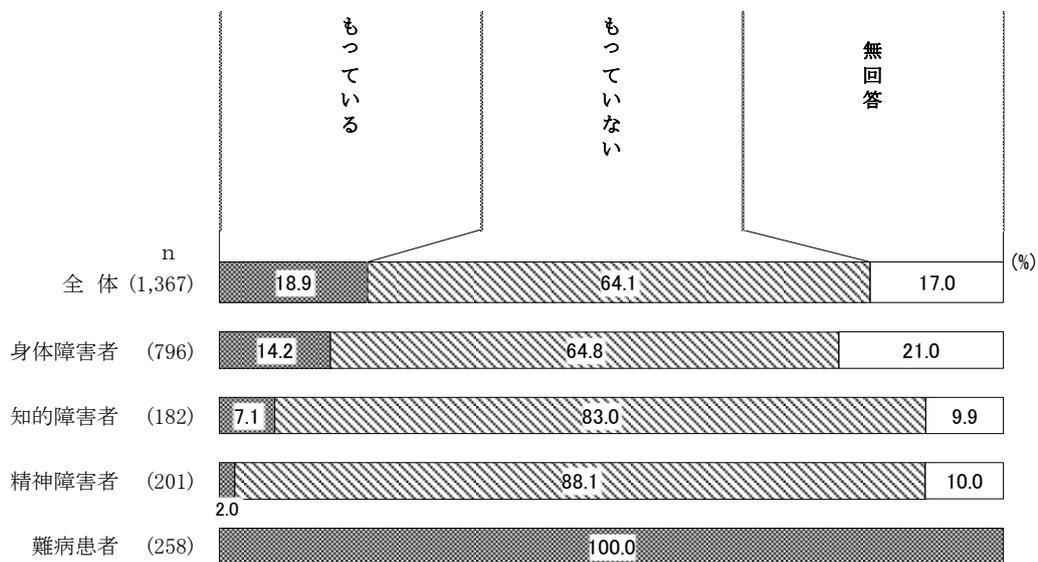


等級[1つに〇]



精神障害者保健福祉手帳の取得状況については、精神障害者以外では「持っている」は5%未満となっています。また、「持っている」と回答した方の等級については「2級」(55.2%)が多くなっています。

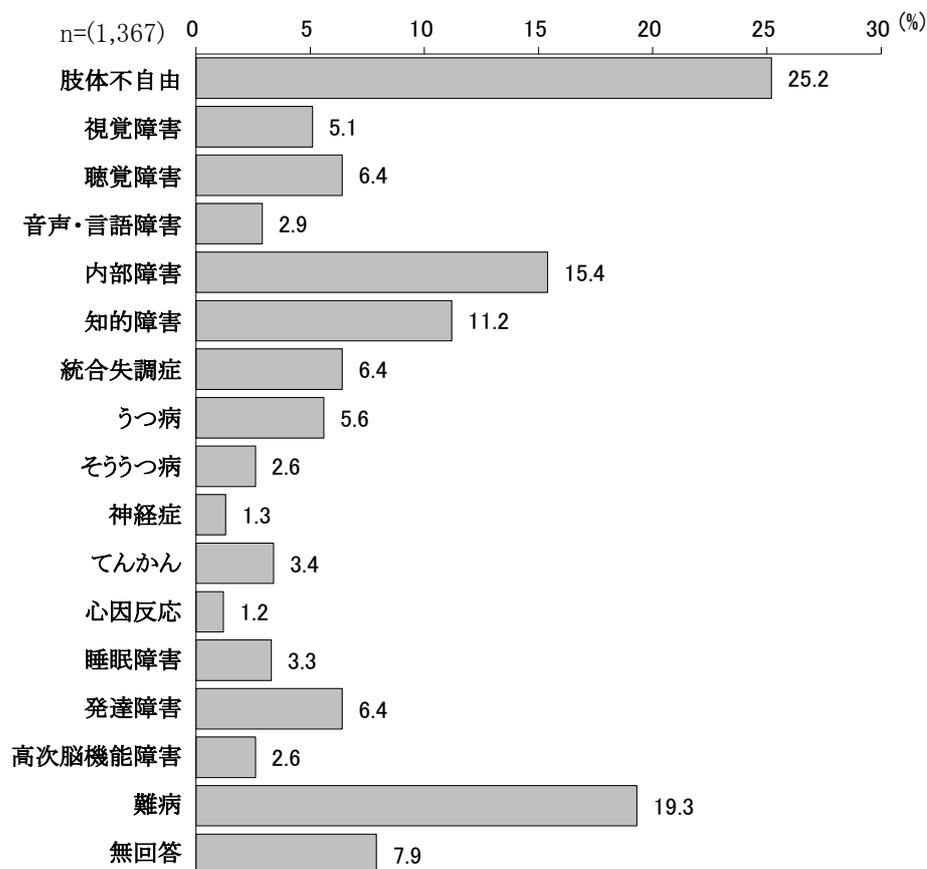
(4) 難病及び人工透析にかかる医療券をお持ちですか。[1つに〇]



難病及び人工透析にかかる医療券については、難病患者以外では、身体障害者の「持っている」が1割台半ば（14.2%）となっています。

問5 障害の種類又は難病の疾病名

問5 障害の種類又は病名についておたずねします。[いくつでも○]



障害の種類については、「肢体不自由」が2割台半ば(25.2%)と多く、次いで「難病」(19.3%)、「内部障害」(15.4%)となっています。

難病の病名について、記入による回答があった242件のうち、主な病名は表のとおりです。「パーキンソン病」(27件)が最も多く、「クローン病」(13件)「全身性エリテマトーデス」(10件)、「サルコイドーシス」と「潰瘍性大腸炎」(ともに9件)の順で続いています。

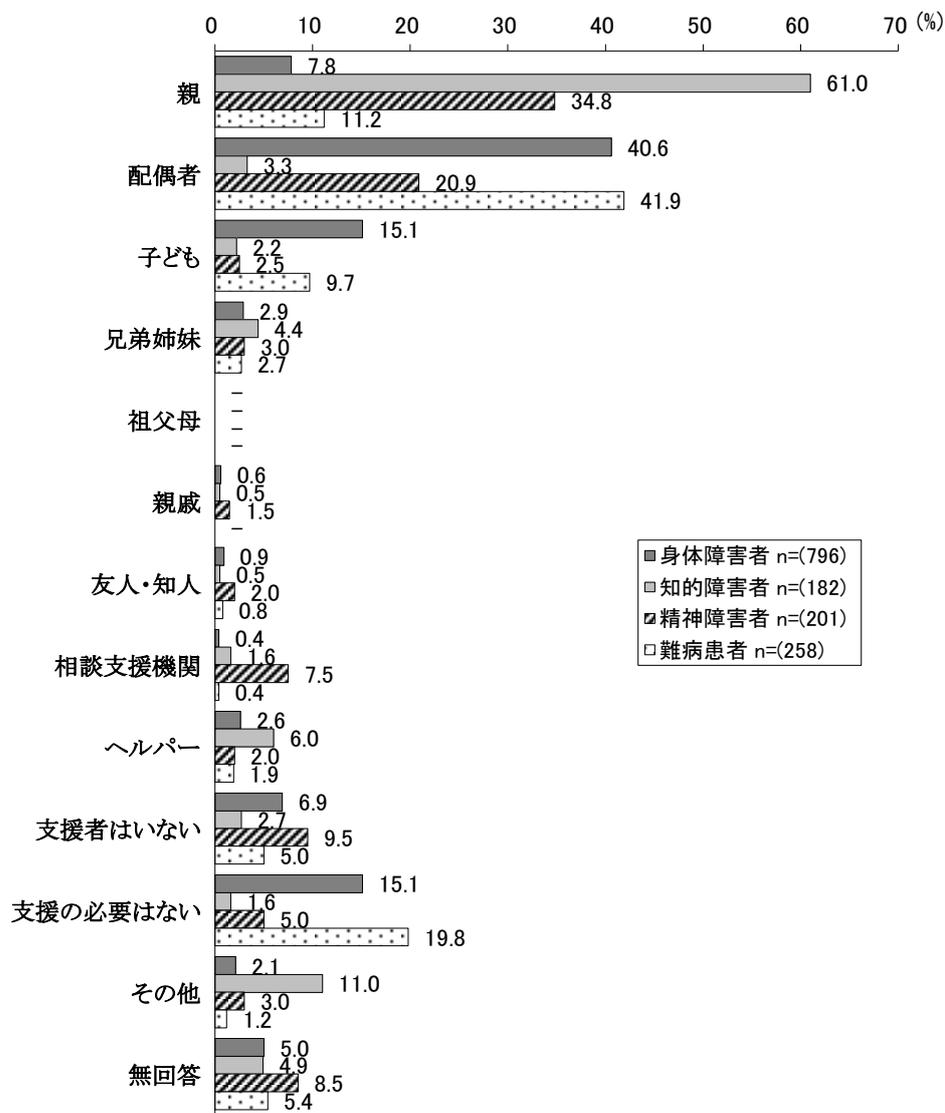
主な病名 (上位5件)

病名	件数
パーキンソン病	27
クローン病	13
全身性エリテマトーデス	10
サルコイドーシス	9
潰瘍性大腸炎	9

2. 日常生活について

問6 主な支援者

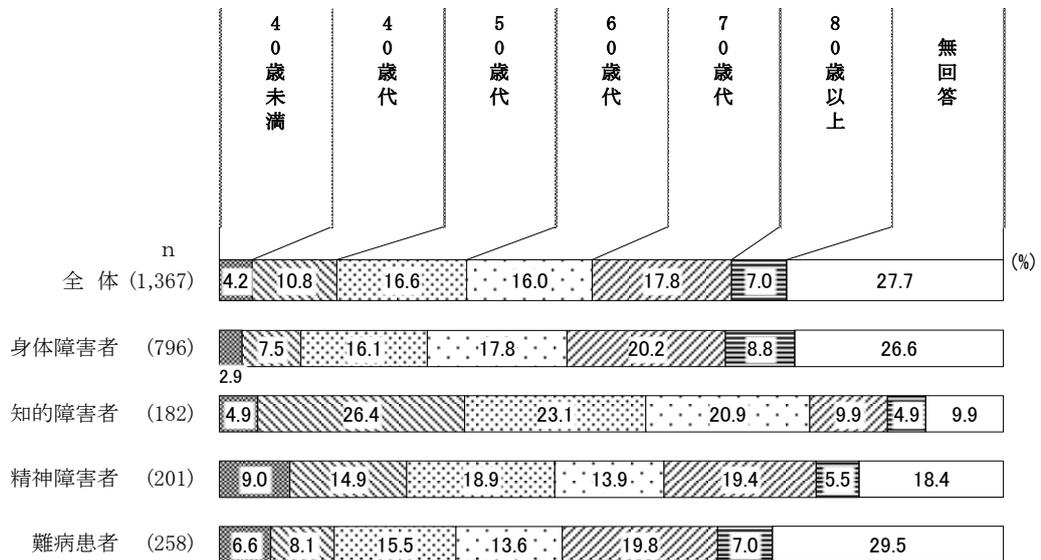
問6 主な支援者は誰ですか。[1つに○]



主な支援者については、身体障害者と難病患者は「配偶者」が4割以上（順に40.6%、41.9%）と最も多くなっています。知的障害者と精神障害者は「親」が最も多く（順に61.0%、34.8%）、特に知的障害者は6割台前半と多くなっています。また、「支援の必要はない」と回答した割合は、身体障害者、難病患者（順に15.1%、19.8%）が知的障害者、精神障害者（順に1.6%、5.0%）と比べて多くなっています。

問7 主な支援者の年齢

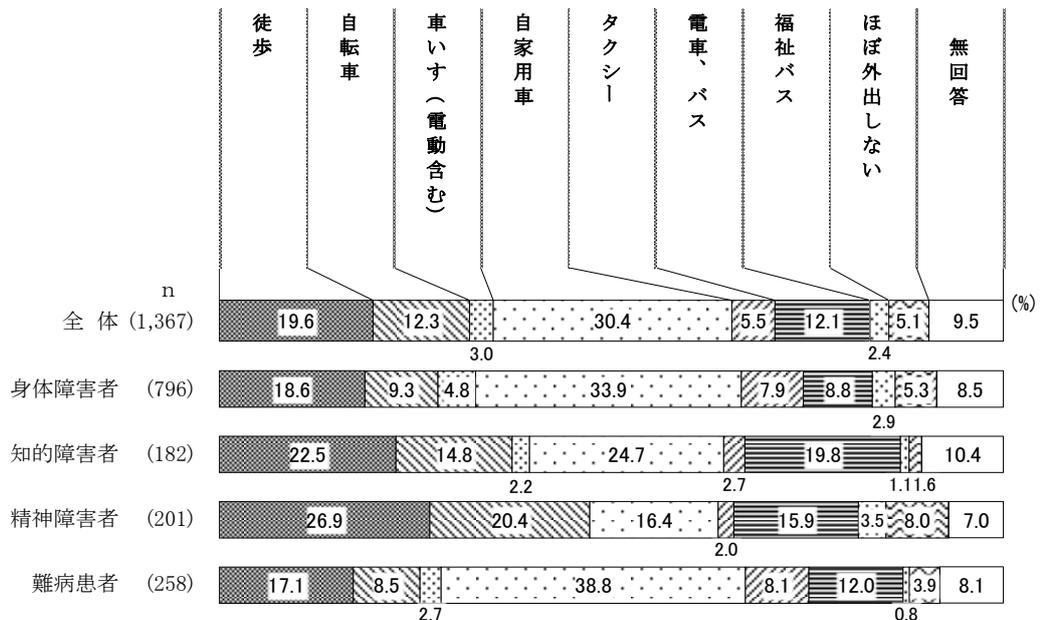
問7 支援者がいる場合、主な支援者の年齢はどれですか。[1つに○]



主な支援者の年齢については、身体障害者、精神障害者、難病患者は「70歳代」（順に20.2%、19.4%、19.8%）、知的障害者は「40歳代」（26.4%）が最も多くなっています。

問8 外出する際の最も多い手段

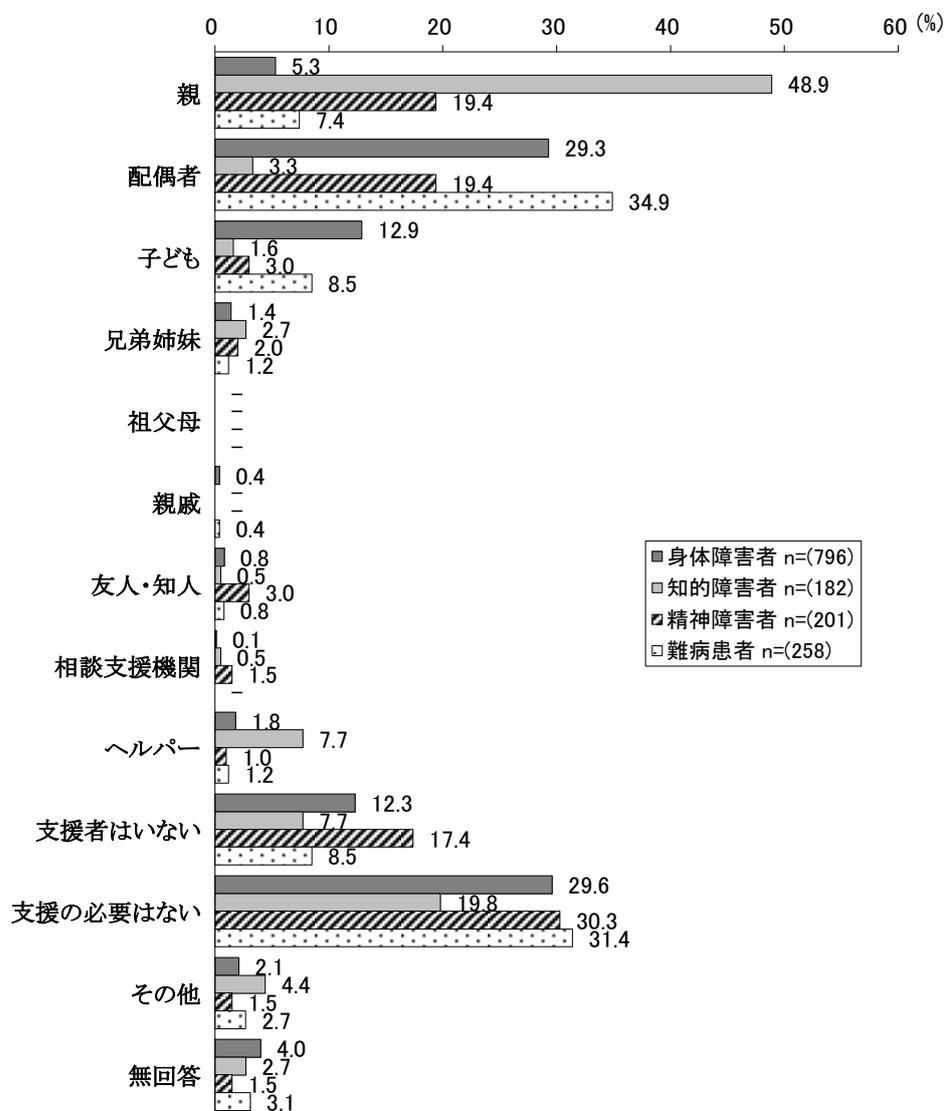
問8 外出する際の最も多い手段は何ですか。[1つに○]



外出の手段については、身体障害者、知的障害者、難病患者は「自家用車」（順に33.9%、24.7%、38.8%）、精神障害者は「徒歩」（26.9%）が最も多くなっています。

問9 外出するときの主な支援者

問9 外出するときの主な支援者は誰ですか。[1つに○]

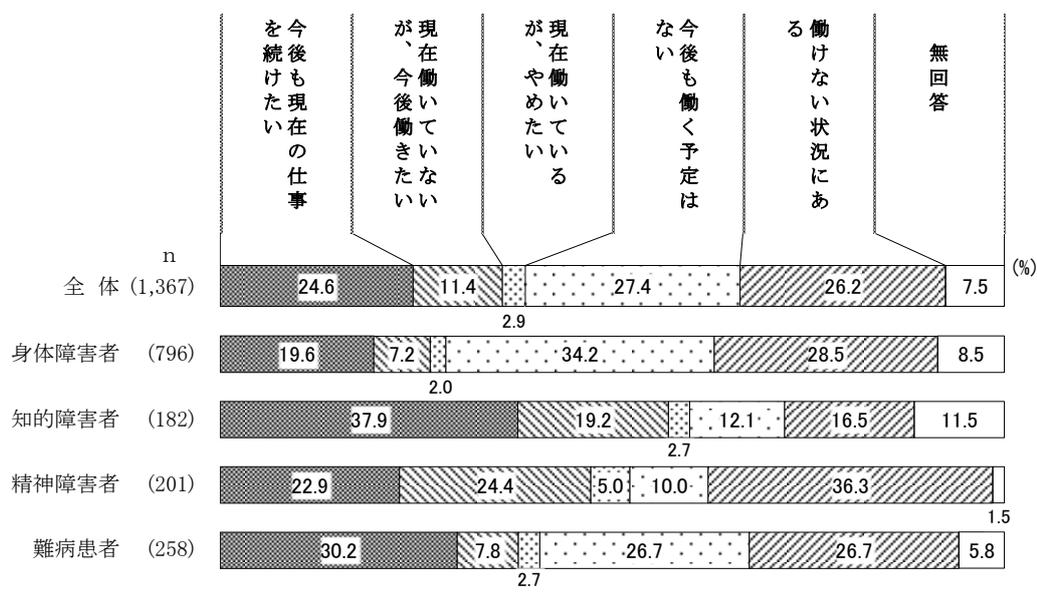


外出するときの主な支援者については、身体障害者は「支援の必要はない」が約3割（29.6%）と最も多く、次いで「配偶者」（29.3%）となっています。知的障害者は「親」が4割台後半（48.9%）と最も多く、次いで「支援の必要はない」（19.8%）となっています。精神障害者は「支援の必要はない」が約3割（30.3%）と最も多く、次いで「親」「配偶者」（ともに19.4%）となっています。難病患者は「配偶者」が3割台半ば（34.9%）と最も多く、次いで「支援の必要はない」（31.4%）となっています。

3. 就労について

問10 現在の就労状況

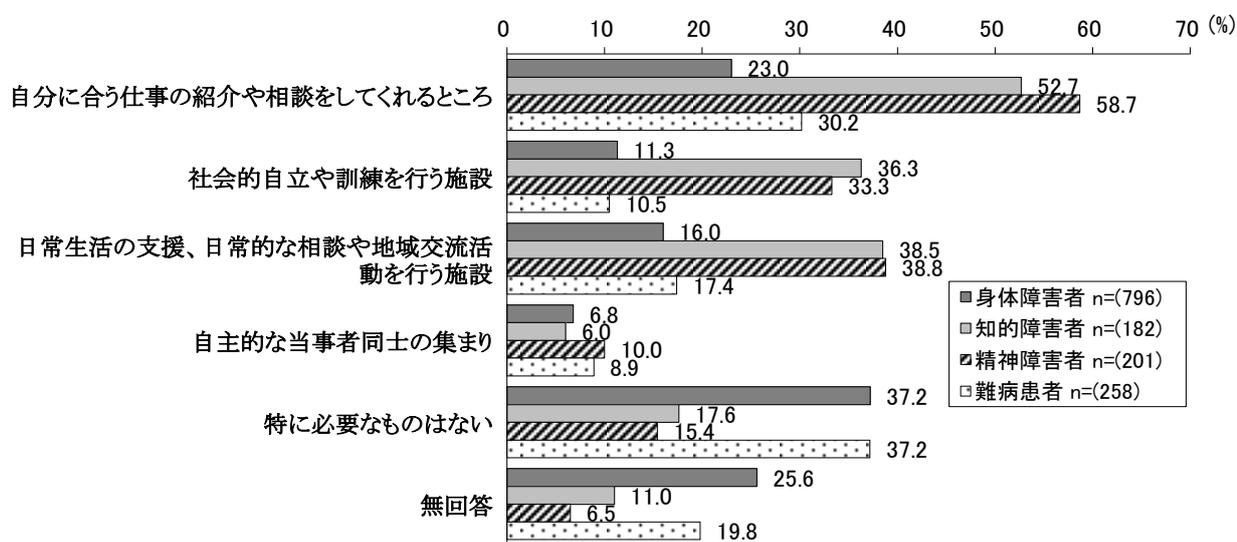
問10 現在の就労状況について教えてください。[1つに○]



現在の就労状況については、身体障害者と精神障害者は「働けない状況にある」（順に 28.5%、36.3%）が最も多くなっています。知的障害者と難病患者は「今後も現在の仕事を続けたい」（順に 37.9%、30.2%）が最も多くなっています。

問11 働く場や活動の場を充実させるため、必要と思うもの

問11 働く場や活動の場を充実させるため、必要と思うものは何ですか。[3つ以内に○]

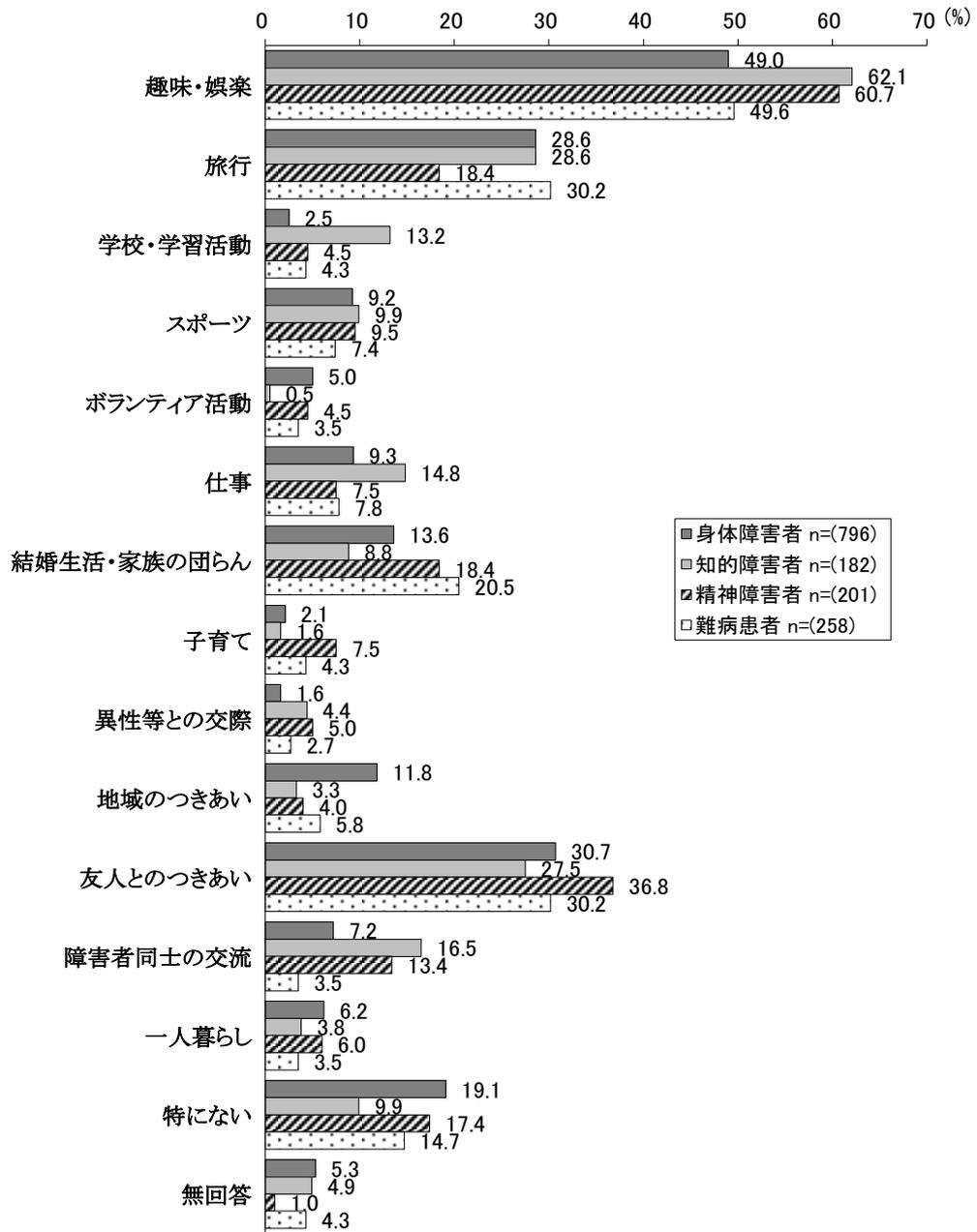


働く場や活動の場を充実させるため、必要と思うものについては、身体障害者と難病患者は「特に必要なものはない」がともに3割台後半（37.2%）で最も多くなっています。知的障害者と精神障害者は「自分に合う仕事の紹介や相談をしてくれるところ」が5割以上（順に52.7%、58.7%）で最も多く、次いで「日常生活の支援、日常的な相談や地域交流活動を行う施設」（順に38.5%、38.8%）、「社会的自立や訓練を行う施設」（順に36.3%、33.3%）となっています。

4. 日頃の活動について

問12 楽しみや生きがい

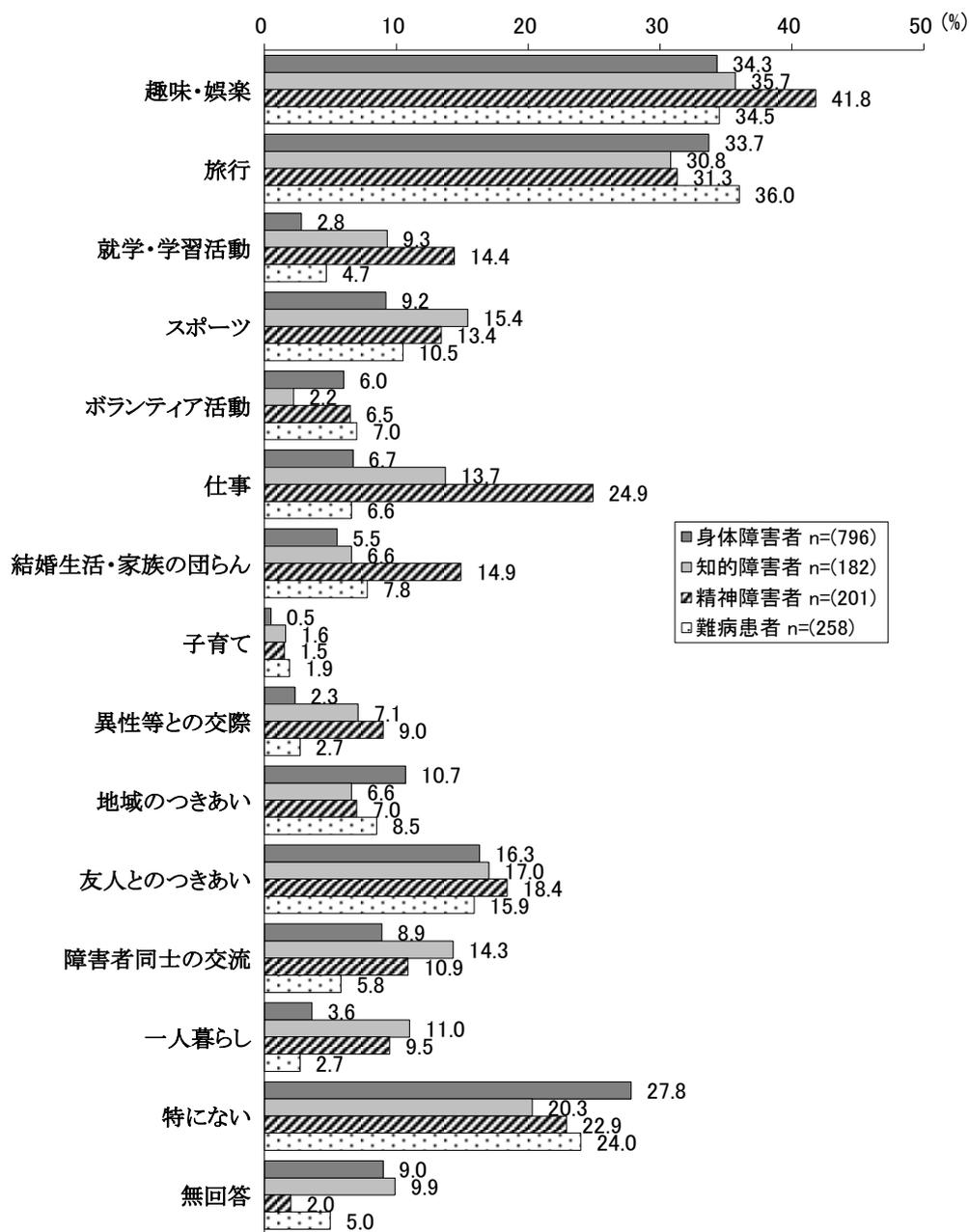
問12 楽しみや生きがいは何ですか。[いくつでも○]



楽しみや生きがいについては、すべての種別において、「趣味・娯楽」が最も多くなっています。

問13 今後やってみたいこと

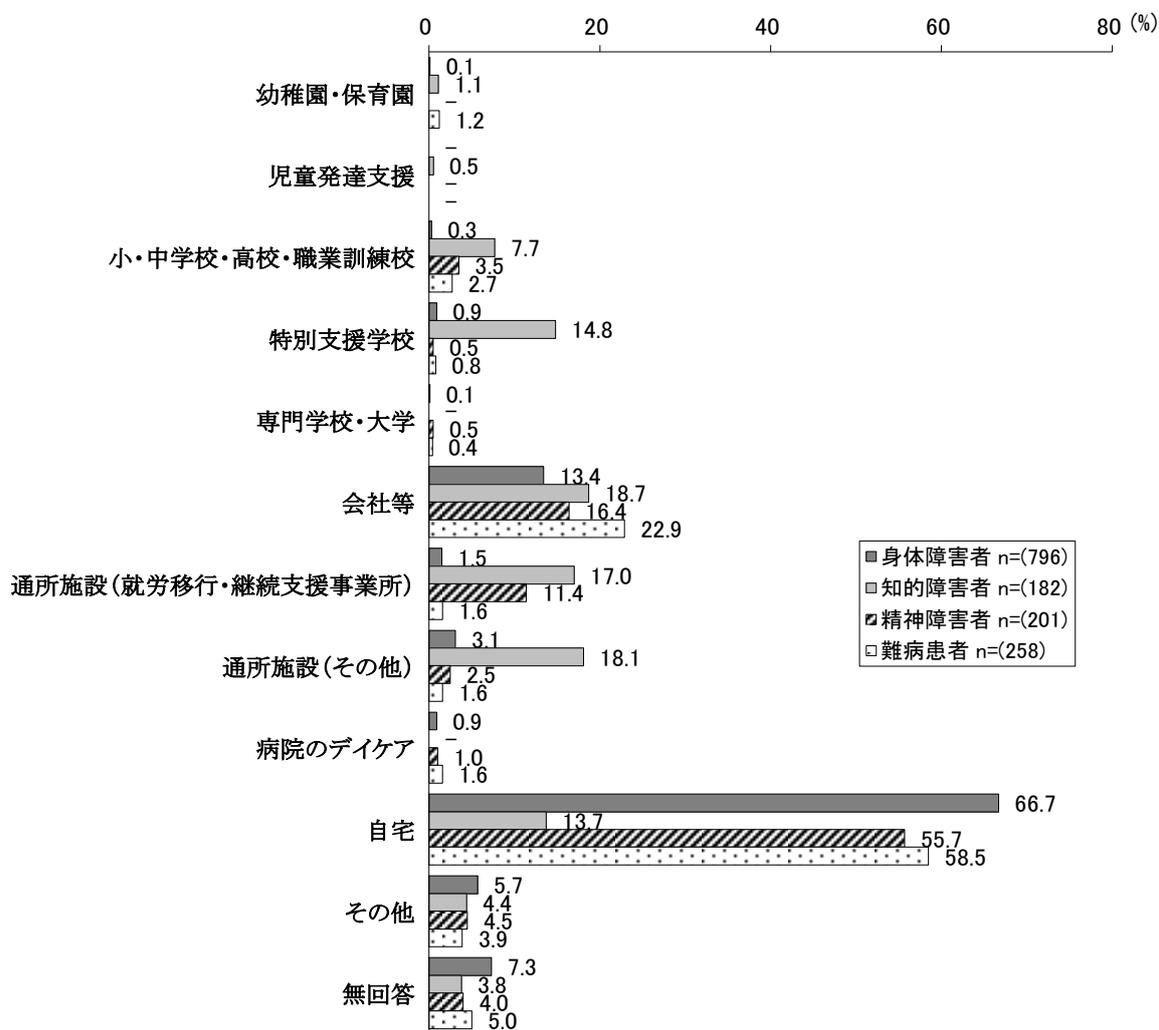
問13 今後やってみたいことはどんなことですか。[いくつでも○]



今後やってみたいことについては、身体障害者、知的障害者、精神障害者は「趣味・娯楽」が最も多く、次いで「旅行」となっています。難病患者は「旅行」が最も多く、次いで「趣味・娯楽」となっています。また、「特にない」の割合はすべての種別において2割以上となっています。

問14 日中主に過ごしている場所

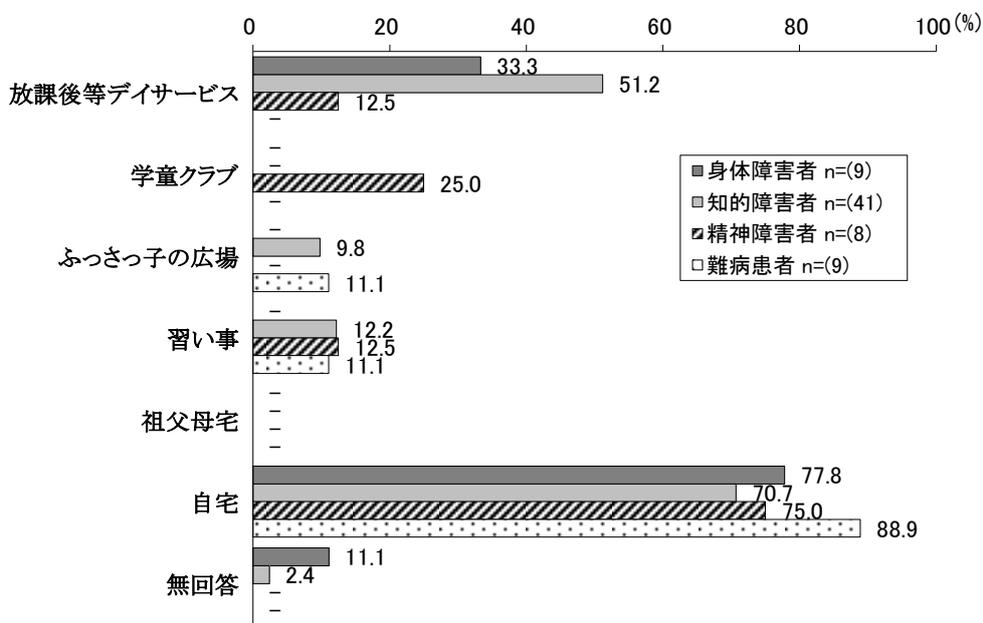
問14 日中は主にどこで過ごしていますか。[1つに〇]



日中、主に過ごす場所については、身体障害者、精神障害者、難病患者は「自宅」が最も多いですが、知的障害者は「自宅」の割合は1割前半（13.7%）と少なく、「会社等」（18.7%）、「通所施設（その他）」（18.1%）、「通所施設（就労移行・継続支援事業所）」（17.0%）が多くなっています。

問15 放課後や休日を過ごす場所

問15 問14で「小・中学校・高校・職業訓練校」又は「特別支援学校」を選択した方は放課後や休日をどこで過ごしますか。[いくつでも○]

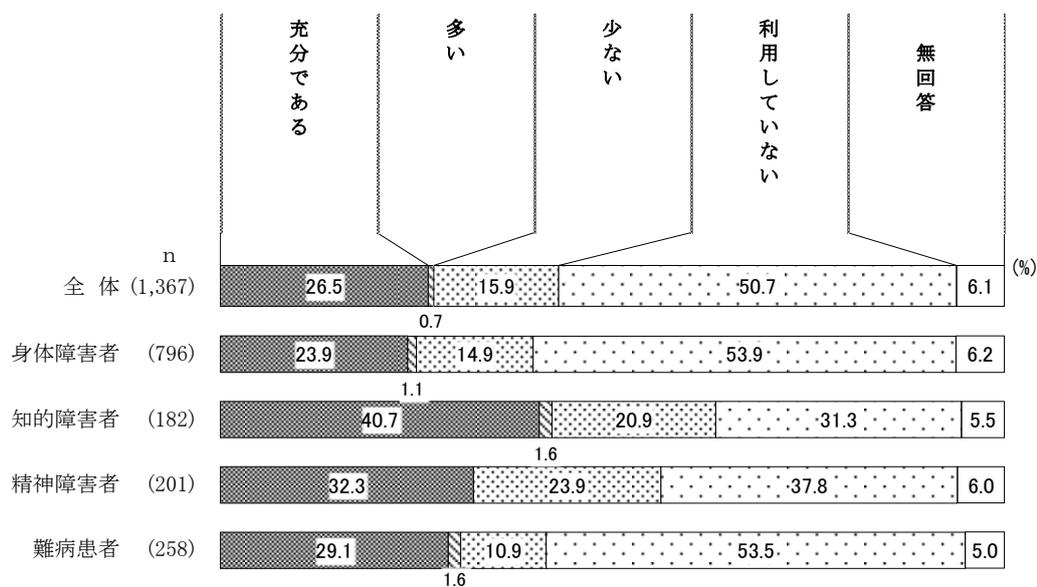


問14で「小・中学校・高校・職業訓練校」又は「特別支援学校」を選択した方の放課後や休日を過ごす場所については、すべての種別において自宅が最も多く、7割以上となっています。

5. 福祉サービスについて

問16 現在、利用しているサービス量の満足度

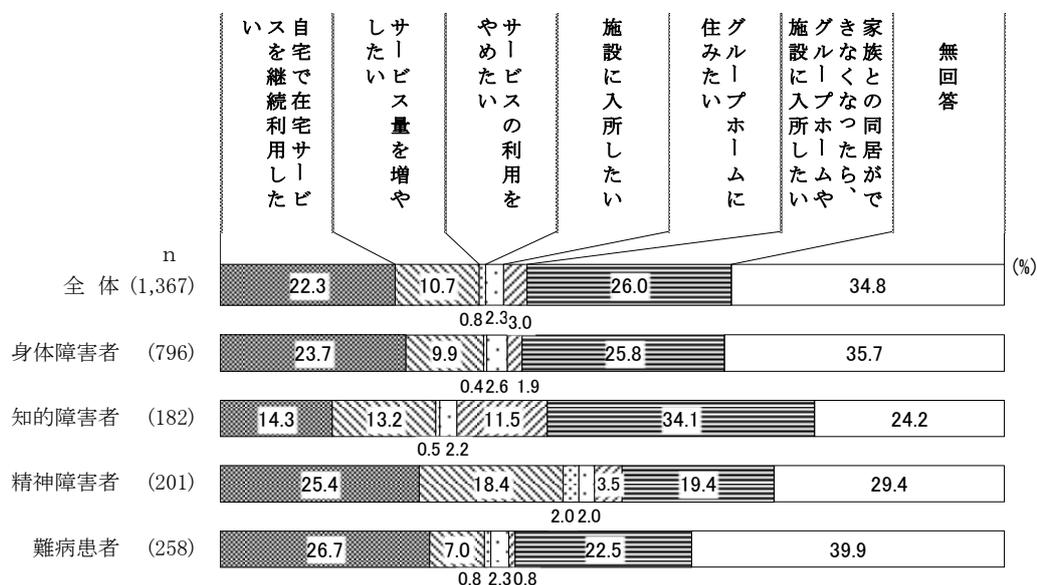
問16 現在、利用しているサービス量は充分だと思いますか。[1つに○]



現在利用しているサービスのサービス量については、身体障害者、精神障害者、難病患者は「利用していない」が最も多くなっています。知的障害者は「充分である」が約4割（40.7%）で最も多くなっています。

問17 今後のサービス利用意向

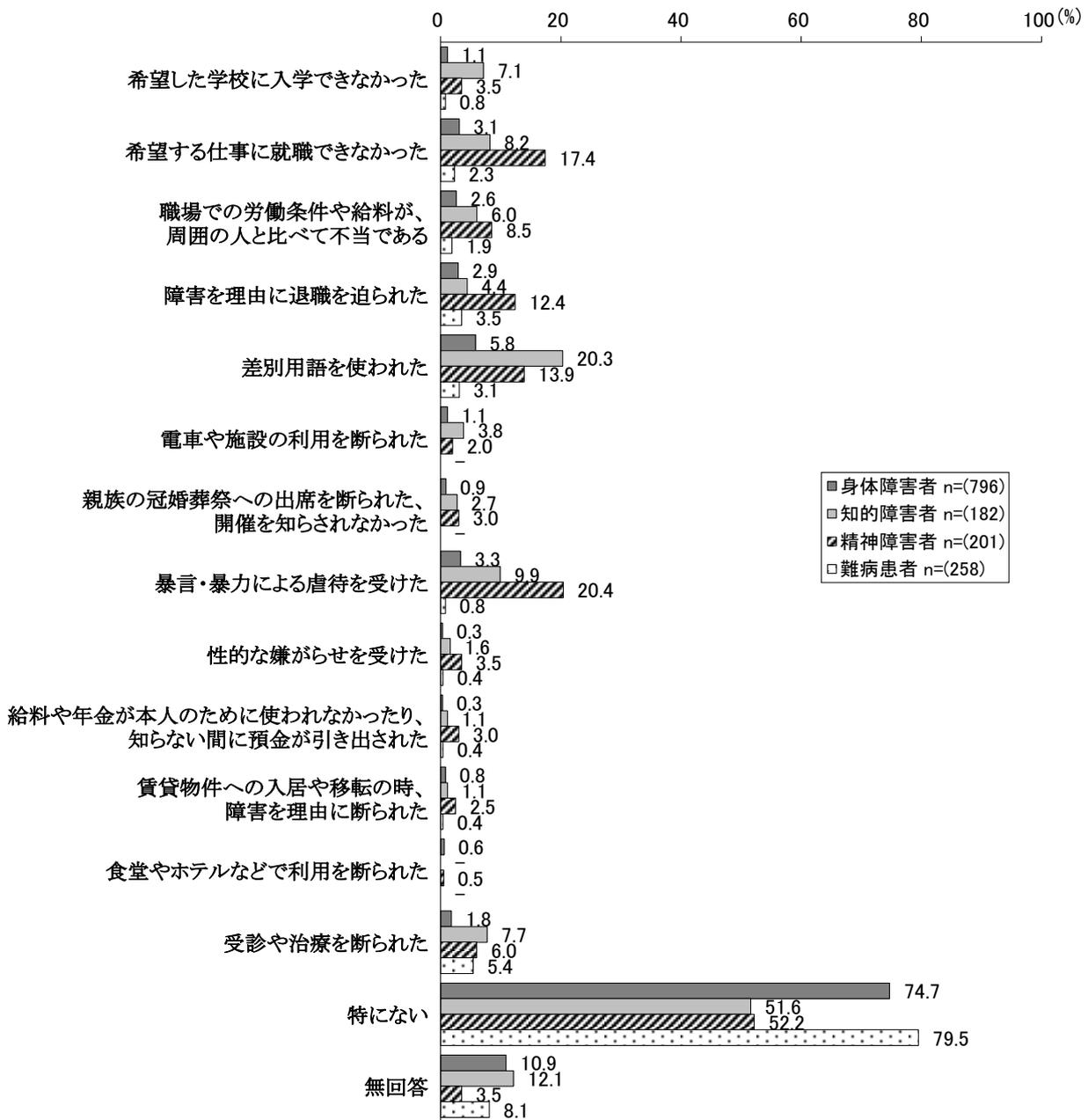
問17 今後、サービスをどのように利用したいですか。[1つに〇]



今後のサービスの利用希望については、身体障害者と知的障害者は「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」が最も多く（順に25.8%、34.1%）、次いで「自宅で在宅サービスを継続利用したい」（順に23.7%、14.3%）となっています。精神障害者と難病患者は「自宅で在宅サービスを継続利用したい」が最も多く（順に25.4%、26.7%）、次いで「家族との同居ができなくなったら、グループホームや施設に入所したい」（順に19.4%、22.5%）となっています。

問18 障害又は難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験の有無

問18 障害又は難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験がありますか。[いくつでも○]



障害又は難病が原因で人権を損なう扱いを受けた経験については、すべての種別において「特にな

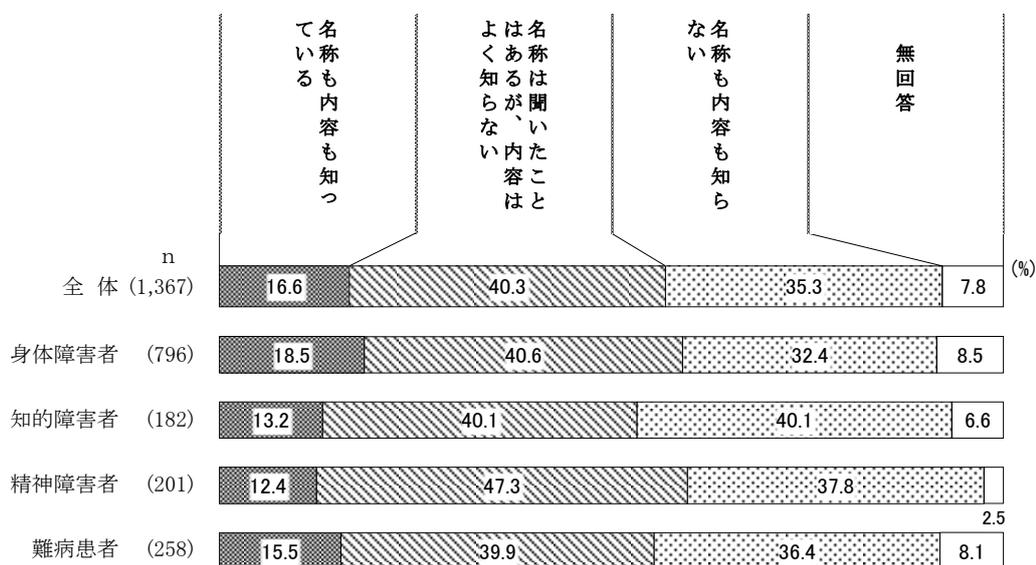
い」が最も多くなっていますが、知的障害者の「差別用語が使われた」(20.3%)、精神障害者の「暴

言・暴力による虐待を受けた」(20.4%)と「希望する仕事に就職できなかった」(17.4%)の割合が

多くなっています。

問19 「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」の認知度

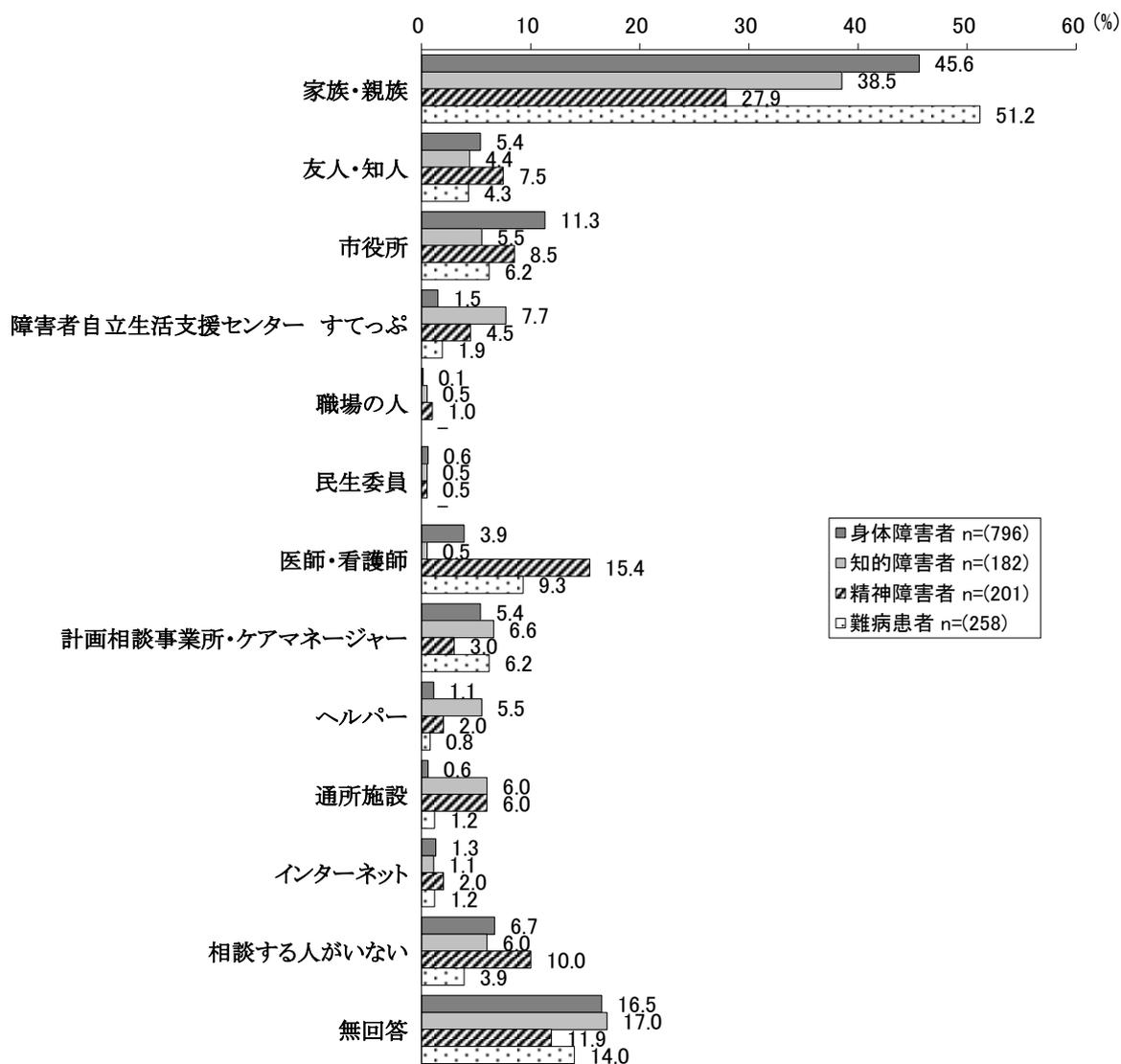
問19 判断能力が充分でない方の権利を守る事業として、「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」がありますが、ご存知でしたか。[1つに〇]



「地域福祉権利擁護事業」や「成年後見制度」の認知度については、すべての種別において「名称も内容も知っている」の割合は2割未満と少なく、「名称も内容も知らない」が3割以上になっています。

問20 対象者や支援者が、生活上の悩みや困ったことを相談する相手

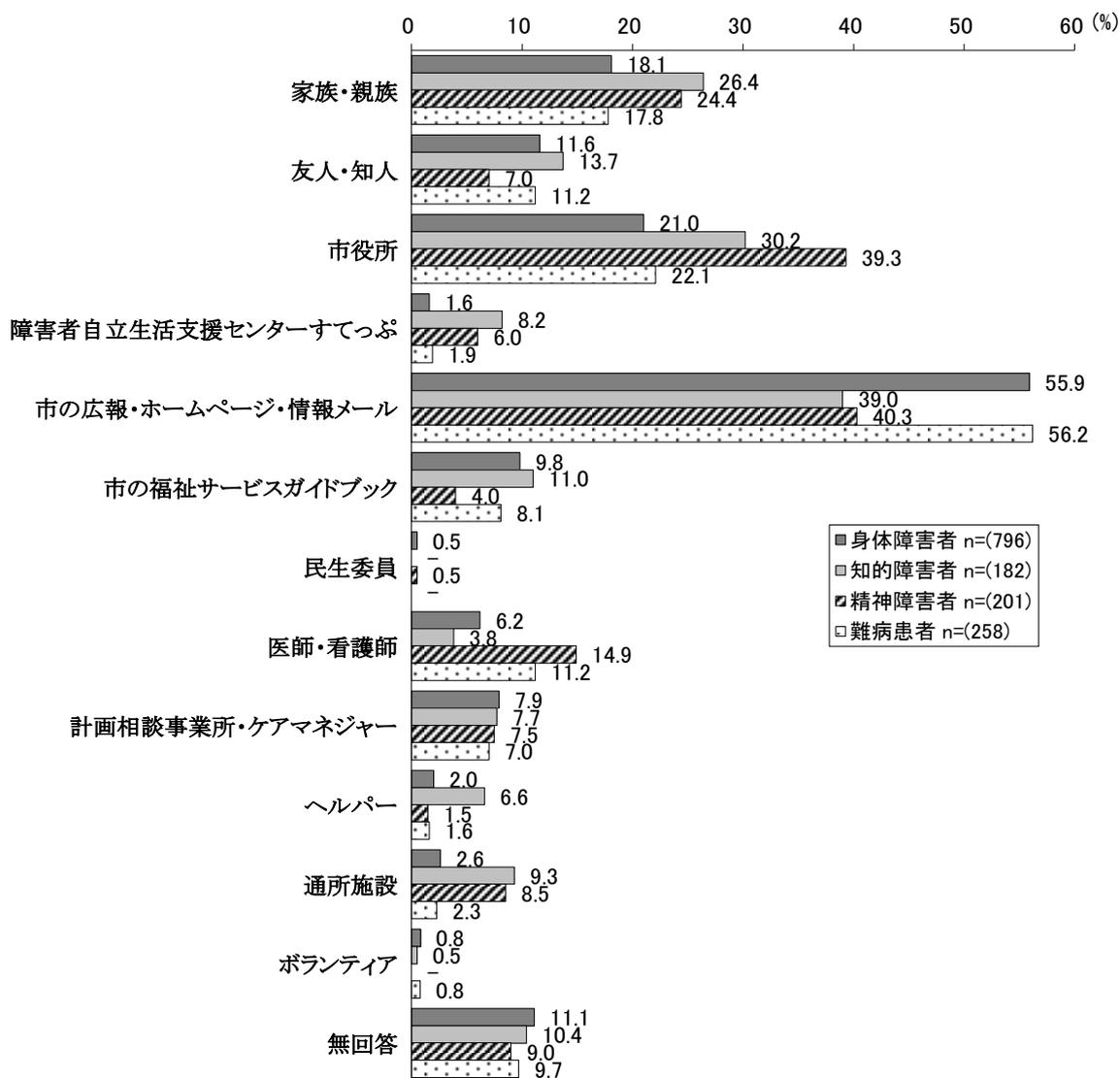
問20 あなたや支援者が、生活上の悩みや困ったことを相談するのはどこですか。[1つに○]



生活上の悩みや困ったことの相談先については、すべての種別において「家族・親族」の割合が最も多くなっています。その中で、精神障害者は「家族・親族」の割合が2割台後半（27.9%）と他の種別と比べて少ないですが、「医師・看護師」の割合が1割台半ば（15.4%）と他の種別よりも多くなっています。

問21 市の行事、福祉、保健に関する情報の入手先

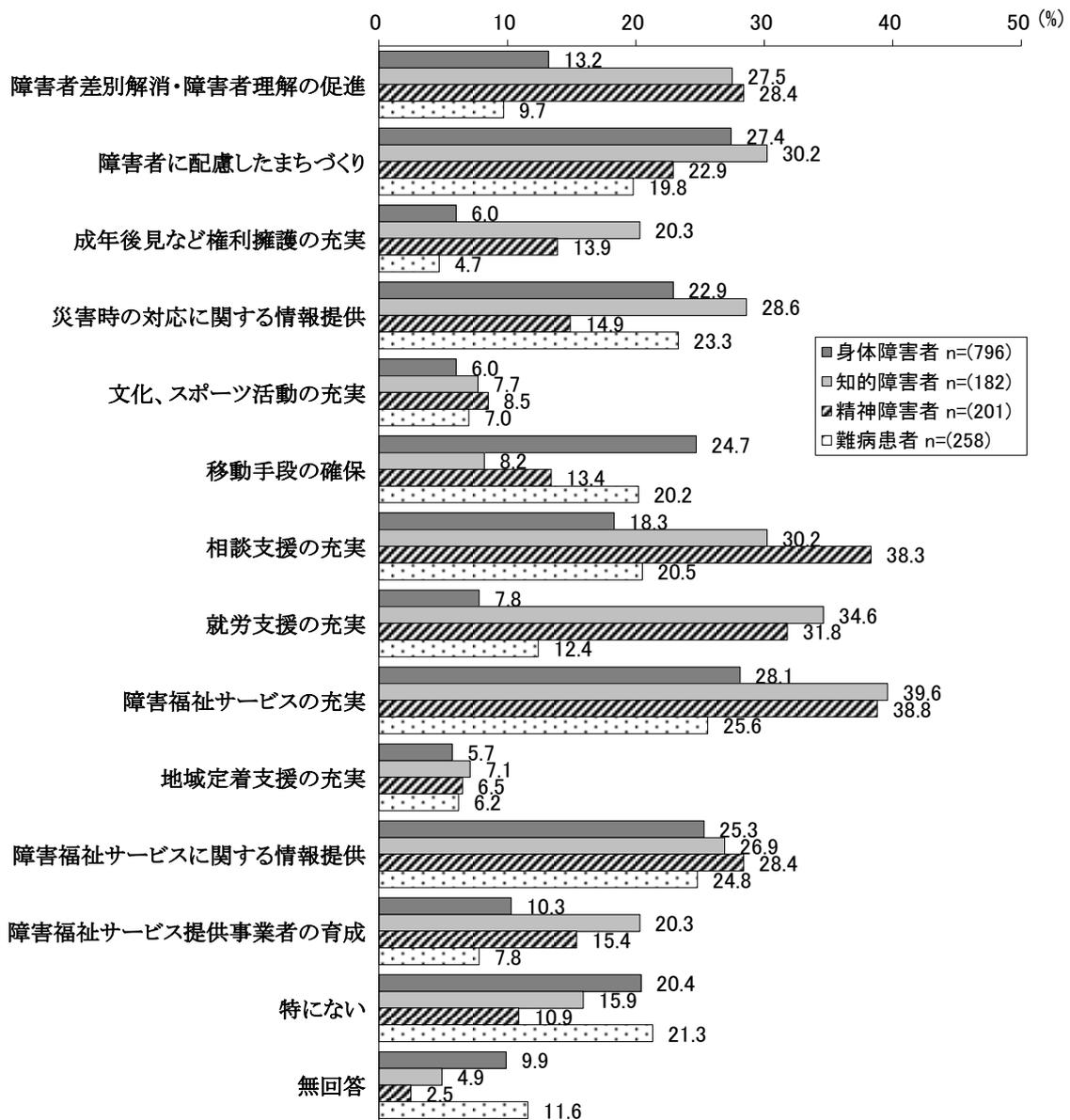
問21 市の行事、福祉、保健に関することは、主に何で知りましたか。[いくつでも○]



市の行事、福祉、保健に関することを知る手段については、すべての種別において「市の広報・ホームページ・情報メール」の割合が最も多くなっており、次いで「市役所」、「家族・親族」の順となっています。知的障害者と精神障害者は「市の広報・ホームページ・情報メール」が約4割（順に39.0%、40.3%）で、身体障害者と難病患者に比べて少ないですが、「市役所」、「家族・親族」の割合が、身体障害者と難病患者の割合より多くなっています。

問22 今後、市に期待すること

問22 今後、市に何を期待しますか。[5つ以内に○]

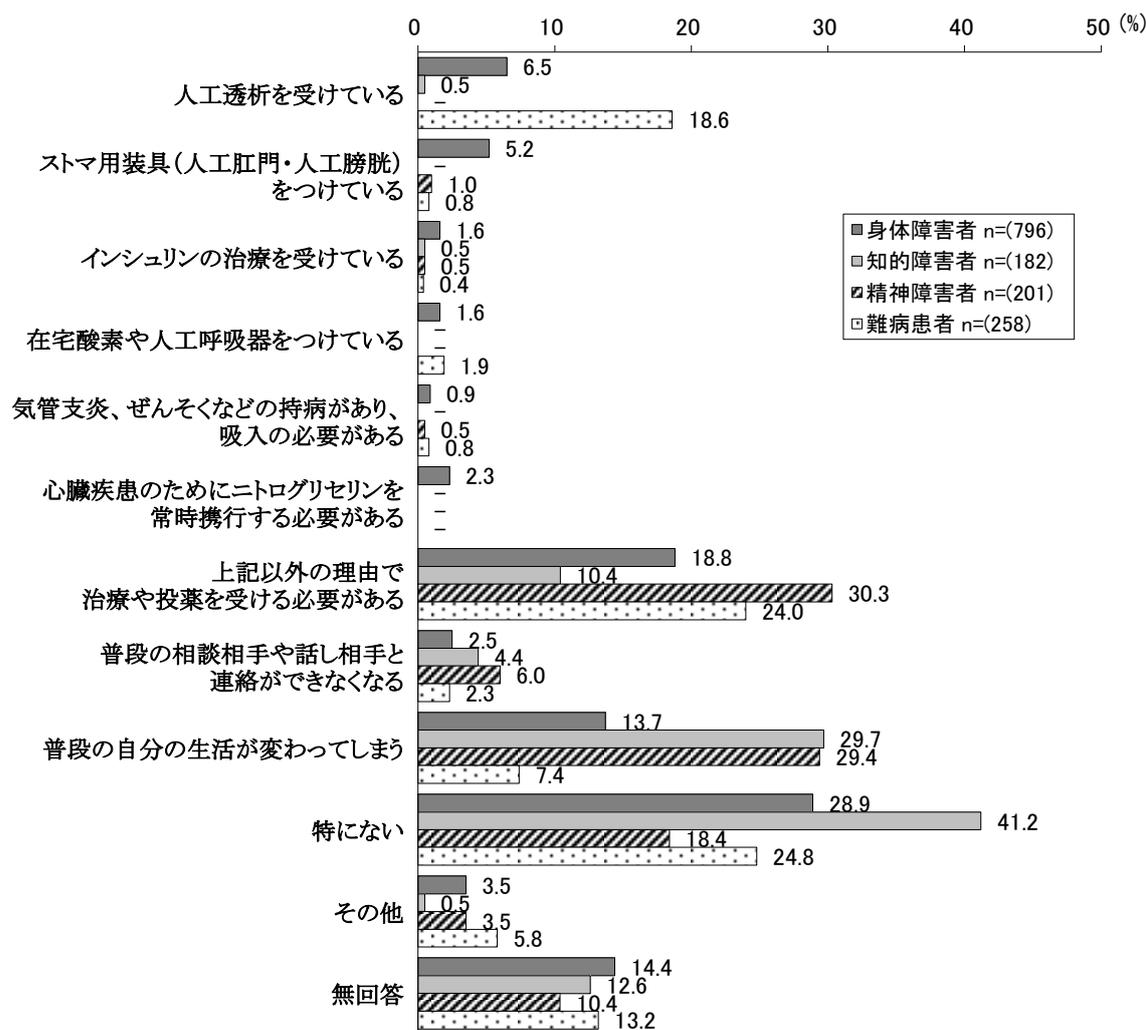


市に期待することについては、すべての種別において「障害福祉サービスの充実」の割合が最も多くなっています。次いで、身体障害者は「障害者に配慮したまちづくり」(27.4%)、「障害福祉サービスに関する情報提供」(25.3%)の順となっています。知的障害者は「就労支援の充実」(34.6%)、「障害者に配慮したまちづくり」、「相談支援の充実」(ともに30.2%)の順となっています。精神障害者は「相談支援の充実」(38.3%)、「就労支援の充実」(31.8%)の順となっています。難病患者は「障害福祉サービスに関する情報提供」(24.8%)、「災害時の対応に関する情報提供」(23.3%)の順となっています。

6. 災害時の対応について

問23 災害発生時、数日間医療機関や福祉サービス等を利用できないとき、心身の健康面や生活面で困ること

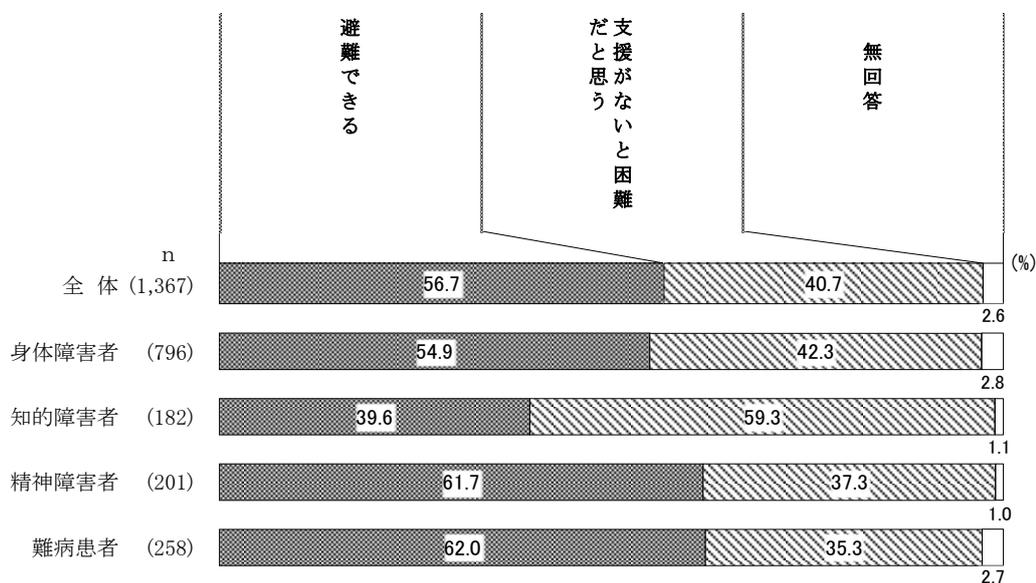
問23 災害発生時、数日間医療機関や福祉サービス等を利用できないことが想定されますが、心身の健康面や生活面で困ることについて、どのようなことがありますか。[1つに○]



災害発生時、心身の健康面や生活面で困ることについては、身体障害者、知的障害者、難病患者は「特にない」の割合が最も多くなっていますが、精神障害者は「治療や投薬を受ける必要がある」が約3割(30.3%)で最も多くなっています。次いで、身体障害者は「治療や投薬を受ける必要がある」(18.8%)、「普段の自分の生活が変わってしまう」(13.7%)の順となっています。知的障害者は「普段の自分の生活が変わってしまう」(29.7%)、「治療や投薬を受ける必要がある」(10.4%)の順となっています。精神障害者は「普段の自分の生活が変わってしまう」(29.4%)、「特にない」(18.4%)の順となっています。難病患者は「治療や投薬を受ける必要がある」(24.0%)、「人工透析を受けている」(18.6%)の順となっています。

問 24 災害発生時に自力で避難することができると思うか

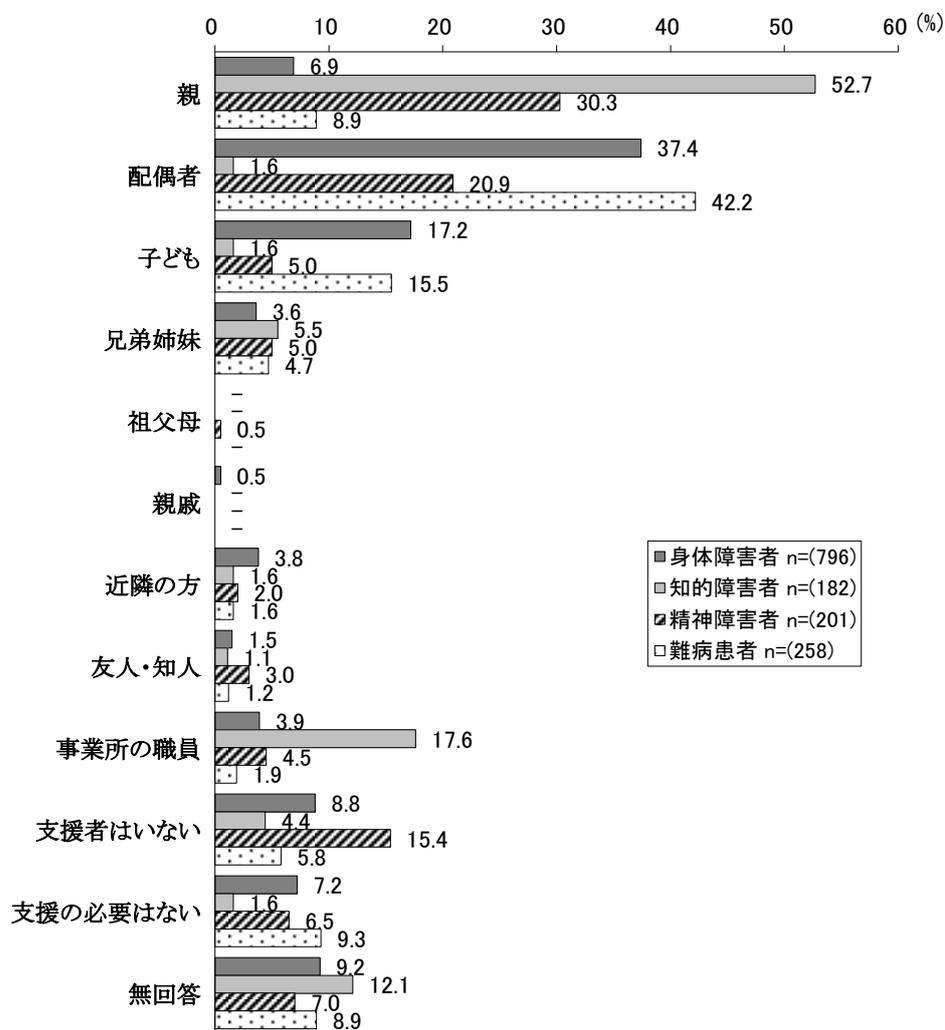
問 24 災害発生時に自力で避難することができると思いますか。[1つに〇]



災害発生時の自力避難の可否については、身体障害者、精神障害者、難病患者は「避難できる」が5割台前半を超えて多くなっています。一方で知的障害者は「支援がないと困難だと思う」が約6割(59.3%)と多くなっています。

問25 災害発生に伴う避難時に、身近に支援してくれる人

問25 災害発生に伴う避難時に、身近に支援してくれる人は誰ですか。[1つに○]



災害発生に伴う避難時に、身近に支援してくれる人については、身体障害者と難病患者は「配偶者」の割合が3割台後半を超えて（順に 37.4%、42.2%）最も多くなっており、次いで「子ども」（順に 17.2%、15.5%）が多くなっています。知的障害者と精神障害者は「親」の割合が約3割を超えて（順に 52.7%、30.3%）最も多くなっています。知的障害者は、次いで「事業所の職員」（17.6%）が多くなっています。精神障害者は、次いで「配偶者」（20.9%）が多くなっています。

自由意見

◎市の障害福祉施策について、ご意見やご要望がありましたら記入してください。

自由意見にはのべ276件の記述がありました。項目別にまとめると以下のようになります。

項目	件数
バス・福祉バスについて	30
市職員の障害者に対する対応の充実	29
災害発生時の支援の充実	21
就労支援の充実	18
福祉避難所について	16
アンケートについて	16
経済的支援	13
入所施設等の充実	11
相談体制の充実	11
サービス全般の質、量の不足、推進	11
市からの積極的な情報発信	10
道路・歩道の整備	9
手続きの簡略化	9
障害福祉制度・サービスへの謝辞	9
親亡き後の支援の充実	7
将来に対する不安	6
通所サービスの充実	6
サービスについての情報提供	5
タクシー券について	5
移動手段の確保	4
障害者差別の解消	4
ヘルプマークの啓発活動	4
市のイベントについて	4
難病患者に対する支援の充実	4
障害者支援の遅れ	4
信号機について	3
交流の場の確保	3
福祉に携わる人材の確保	3
放課後デイサービスの充実	2
通信手段の確保	2
介護者の負担軽減	2
医療サービス等の充実	1

エレベーターの設置	1
ガソリン券について	1
教育に携わる人材の発達障害への理解の推進	1
施設サービスに対する要望	1
個人の状況に合わせたサービスの供給	1
身体障害者用駐車スペースについて	1
トイレの整備	1
児童発達支援の充実	1
障害者手帳で利用できる交通機関の充実	1
障害児に対する支援の充実	1
保育園や各施設の障害児受け入れについて	1

代表的意見

○バス・福祉バスについて 30件

- ・まだ歩けるので杖を使って福祉バスで買い物に行っています。願わくば反対廻りがあるとうれしいのですが。
- ・市内を走る福祉バスを誰でも乗れるコミュニティバスにして欲しいです。いつ見ても2～3人しか乗って居ず特に申請なしでも一定の料金で使用出来たら嬉しいです。
- ・が時間の関係などよくわかるのですが、保健所前、福生病院等二台の車輛が逢うところでは、乗りかえの出来る配慮がほしい場合がございます。

○市職員の障害者に対する対応の充実 29件

- ・市の窓口で、障害者としてはまわりの人を気にすることなく、仕切りや個室的な場所で相談や行政手続きなどができればいいかと、そのつど思っています。
- ・用事があって伺ったとき、同行していた親の方ばかり見て話す職員の方が多いのが気になります。話しているのは、私なので、しっかりこっちを見て話をしてほしいと思います。些細な事ですが、こういった小さなことが傷つくことが多いです。
- ・市役所の窓口で気軽に相談出来る人材が常任して下さる方がおられたら安心です。

○災害発生時の支援の充実 21件

- ・災害時の人工透析支援をお願いします。
- ・避難の放送が聞こえないので、市役所の方が来て教えてくれたので助かりました。また、今後お願いしたいです。

○就労支援の充実 18件

- ・手帳の有無が障害者雇用の判断基準にもなっているようで、難病患者はその枠に入れられない現状を考えると、就労支援や雇用対象の拡大への働きかけを望みます。
- ・就労を1番必要としていますが、就労のためのトレーニングや学び、も要望しています。

○福祉避難所について 16件

- ・避難場所にベッド（障害者用）、トイレがない所には、行けない 病院が受け入れて下さるのが1番良いのですが。
- ・皆様と一緒に場所に避難すると御迷惑をかけてしまう事がとても心苦しいです。その事が一番心配です。なるべく家でとは思っていますが、これからどんな災害が起るか予想もつきません。とても不安です。

○アンケートについて 16件

- ・一人一人の声を聞くためにアンケートは必要ですが、目が不自由な人は字を読むのが大変です。私は子どもに頼んで書いてもらっています。福祉に協力はしたいのですが、わからない事が多く人に聞きながらの答えで、自分の気持ちが伝わるか心配な事が多いです。
- ・毎回、この調査に協力していますが、その答えが回答者に伝わっていないと私は思います。

○経済的支援 13件

- ・わたしは耳が聞えないのですが、市から補聴器を片方だけいただいております。もう片方の耳の補聴器はもらえないでしょうか。私は月に6万円の年金をいただいて生活している者です。その中からは高い補聴器を買うことができません。

○入所施設等の充実 11件

- ・入所施設は女性だとなかなか受け入れてくれない。将来長く受け入れてくれる所がもう少し近くにあれば良いと思う。

○相談体制の充実 11件

- ・専門知識を持った支援員の増員をお願いしたい。市の福祉担当者の対応を充実してほしい。

○サービス全般の質、量の不足、推進 11件

- ・「社会資源を障害者ニーズに適切に結びつける」ということがあると思いますが、相談員が障害者関係の社会資源情報をあまり持っていない状況が伺えます。相談員個人の資質の問題というよりも、地域の福祉サービス等の情報が相談員に伝わっていないという仕組みの問題にも思えます。

○市からの積極的な情報発信 10件

- ・今回のアンケートに同封された災害時のマニュアルがとてもわかりやすいので保管しておきます。定期的に市から、マニュアル本や、サービス種類のお知らせ等を自宅に郵送して頂けると助かります。

第4章 障害者生活実態調査の結果